

井関グループのサステナビリティ

基本方針 (基本的な考え方)

- 持続的な成長と中長期的な企業価値向上を図るためには、井関らしい事業活動により、社会課題を解決し存在感を発揮することが、ステークホルダーとの信頼関係の構築につながるのと同時に、リスク低減・回避にもつながると考えています。
- 井関グループとして、社会からの要請や期待に応え、持続的な社会の発展に貢献するという社会的責任 (CSR) を果たすために、重要課題を特定し推進します。

サステナビリティ推進体制

井関グループでは、CSRに関する事項を審議する「CSR推進会議」を設置し、サステナビリティ活動の推進を図っています。CSR総括部門である総合企画部担当役員を議長とし、審議メンバーを経営会議メンバー、推進メンバーをCSR推進部門の各部門長から構成し、年2回開催しています。

CSR推進会議では、サステナブル経営に関するビジョンや戦略、井関グループが取り組む重要課題の見直しやCSR推進取組計画について審議するとともに、進捗を管理し、PDCAサイクルに基づくマネジメント活動を実践しています。重要な事項については経営会議や取締役会に上程し、決定しています。推進活動については、担当部門が主要取り組み事項の実行・進捗を管理し、関連する会議体で経営層への報告・評価を行っています。

主な関連する会議体		
CSR推進会議	活動全般	広報連絡会
	お客さま (商品)	商品化会議 先端技術戦略会議 品質改善会議
	従業員	人材活性化委員会
	環境	環境企画グループ会議
	コンプライアンス	経営監理委員会

サステナビリティの浸透に向けて

井関グループ全体にサステナビリティを浸透させるために、従業員に向けてトップダウンによるメッセージの継続発信を行うとともに社内報や勉強会などを通じた浸透活動を行っています。特に、若手・中堅社員向けに井関グループのビジョンや理念などの共有に注力しています。社員一人ひとりが日常業務において意識し、行動に結びつけていけるよう、販売や製造現場の社員への浸透も強化していきます。

事例 / SDGs勉強会の実施

従業員に井関グループの事業とSDGsの関わりについて理解を深めてもらうことを目的に、幅広い部門の若手・中堅社員、一部管理職を対象にオンラインにてSDGs勉強会・ワークショップを開催しました。世界の状況や社会課題について学ぶとともに、「SDGsの達成に向けて井関グループとしてできること」などについて考えるグループワークに取り組み、活発な議論が行われました。勉強会後のアンケートでは、参加者の9割がSDGsの本質や考え方について「よく理解できた、理解できた」と回答したほか、勉強会前後でSDGsの理解度(10段階評価)が平均3ポイント上昇しました。



- 参加者の声**
- 自分の行動や選択、業務が社会やSDGsに与える影響をもっと意識していきたい
 - バックカスティングの考え方で、目標に向けて日々の積み重ねを続けていくことの重要性を学ぶことができた
 - 井関の製品・サービスの提供を通じて、社会や人々の暮らしを豊かにし、次世代にもつなげていきたい

ステークホルダーエンゲージメント

基本方針 (基本的な考え方)

- 経営層による直接的な対話をはじめ、ステークホルダーの皆さまとの責任ある対話を行い、強固な信頼関係の構築に努めます。
- 情報開示においては、情報を適切に開示し、社会的説明責任を果たすこと、及び社会的説明義務の大切さを認識し、グループ内外に対して、必要な情報の迅速で正確な開示に努め、透明性のある企業作りを心がけます。
- 株主・投資家の皆さまやお客さまをはじめ、取引先・地域社会・従業員など、あらゆるステークホルダーからの当社グループに対する適正な評価と経営の透明性を確保するため、当社グループに関する経営関連情報などについて、フェアディスクロージャーの趣旨・意義を踏まえ公平・公正かつ適時・適切な開示に努めます。

○ 主なステークホルダーエンゲージメント

さまざまな対話を通じていただいたご意見・ご要望は、担当部門などで集約され、毎月の広報連絡会を通じて経営層に報告しており、適切に事業活動に反映しています。

ステークホルダー	エンゲージメントに対する考え方	対話の機会
お客さま	お客さまに満足していただける、高品質かつ安全な商品・サービスを提供するため、農業機械の活用や安全な使用に関するサポートをはじめ、栽培技術などの営農提案・サポートを行っています。また、対話を通じてお客さまの真のニーズの把握に努め、より良い商品開発につなげていきます。	セールス・サービス担当との直接対話、ユーザー交流会、訪問、各種研修・講習会、展示会・実演会、営農技術提案・支援、市場調査
株主・投資家	株主・投資家の皆さまと長期的な信頼関係を築くため、コーポレートガバナンスの強化に努めていきます。フェアディスクロージャーポリシーに基づいた建設的な対話を行っています。	株主総会、決算説明会、個別ミーティング、個人投資家・個人株主向け説明会、施設見学会
取引先	持続可能なサプライチェーンの構築に向け、取引先の皆さまと協調し、公平・公正な取引をはじめ、相互の事業の発展に結びつくよう相互研鑽の機会創出に取り組んでいきます。	協力企業IR説明会、ディーラーミーティング、優良企業見学会、調達先の視察・面談、業務連絡会、井松会定期総会、訪問 (国内・海外)
従業員	働きやすい職場づくりと人材の育成に向けて、安心・安全な職場の提供や会社情報の共有、キャリア形成のサポートなどに取り組んでいきます。	社内IR、労使協議会、社員大会、各種研修、各種表彰大会やコンクール、OB/OG会
地域社会	地域社会との共生に向けて、環境保全や地域の成長・発展に向けた活動、次世代育成に向けた活動に取り組んでいきます。	製造所・展示館見学、清掃活動などの社会貢献活動、自治体などとの意見交換、地域イベントへの参加

註は、経営層の関与があるもの

株主・投資家との建設的な対話

○ 対話充実に向けた取り組み

株主・投資家との建設的な対話においては、経営管理部門 (IR・広報室、総合企画部、財務部、総務部) の担当役員が総括し、社長・当該役員・当該経営管理部門が決算説明会をはじめとしたさまざまな機会を通じた積極的な対応に努めています。

対話の充実に向け、IR担当者は各テーマの担当部署と連携し、開示資料作成や情報共有などを全社的に進めているほか、月1回の広報連絡会にて、各部署との連携や情報共有を図っています。また、ホームページに株主・投資家専用ページを設け、経営方針、業績などの開示情報をわかりやすくご紹介しています。対話を通じて得られたご意見などは、会議体での報告やレポートなどにより、取締役・経営陣及び関連部門に報告し、情報の共有を図っています。

○ 株主重視の株主総会運営

株主の皆さまが出席しやすい環境を整え、株主重視の総会運営を行っています。株主総会招集通知は、株主総会開催日3週間前の発送や発送日前にホームページに掲載するなどのほか、議決権行使の利便性向上のため郵送に加え、インターネットによる議決権の電子行使を可能にしています。

また、井関に対する理解を少しでも深めていただくことを目的に、事業報告のビジュアル化を行い、トピックスを掲載し、当社の取り組みをご紹介します。また、第97期定時株主総会においては、コロナ禍における株主の皆さまの安全を第一に考え、動画による配信を行いました。